

2026年度

奈良大学大学院 秋季入学試験

社会学研究科 社会学専攻 臨床心理学コース

試験問題

専 門 科 目

《注 意》

解答は、設問ごとに解答用紙を替えて記入してください。

【1】 次の問題に答えなさい。（各 600～800 字）

- ① 子どもに対する知能検査は、子どもがどのような状況のときに実施が検討され、その検査結果をどのように活用しようとするのか、具体例を 2 つ以上挙げて述べなさい。
- ② 心理面接において、傾聴が重要であるが、そのための技術、基本的なかわり技法、留意点などについて述べなさい。

【2】 次の事例を読んで、問いに答えなさい。

20代後半の女性A、会社員。「職場でミスをするので上司から嫌われる、不安で眠れない」という主訴で、心理相談機関を訪れた。カウンセラーが話を聴いたが、実際に大きなミスをしたことや上司から叱責を受けたことはない様子で、上司の表情や態度から「そのように感じる」ということであつた。面接を重ねる中で、Aは小さい頃からちょっとした失敗を親にとがめられることが多く、そのため、叱られないよう親の顔色を見ながら育ってきたということがわかってきた。あるセッションで、話が途切れてカウンセラーが沈黙することがあつた。するとAは「先生は私がうまく話せないから私のことをよく思っていないのではないかと不安を語った。

1. Aの心理についてどのように理解しますか。以下の言葉を用いて説明してください。

- ① 転移 （200～250字）
- ② 学習 （200～250字）

2. Aに心理テストを行うとしたら、何を行いますか。理由と合わせて説明してください。（100～150字）

【3】 以下の事項について述べなさい。（各 150～200 字）

- ① 精神交互作用
- ② 認知症スクリーニング検査
- ③ 「反抗期」の発達の意義
- ④ 小児期逆境体験（Adverse Childhood Experiences; ACEs）
- ⑤ 標準化

専門科目

【1】 次の問題に答えなさい。（各 600～800 字）

- ① 子どもに対する知能検査は、子どもがどのような状況のときに実施が検討され、その検査結果をどのように活用しようとするのか、具体例を 2 つ以上挙げて述べなさい。

【出題意図】： 知能検査の活用について理解しているかをみる

【解答例】：

子どもに対する知能検査は、子どもの認知的機能を把握して、適切な支援や教育的配慮の必要を検討する場合に実施される。

具体的例としては、第一に、授業を真面目に受けているにもかかわらず、学業成績の不振や、学習内容によって得意不得意に大きな差が見られる場合である。子ども自身も毎日努力し、保護者や教師が手厚く指導しているにも関わらず改善していかない。教師や保護者は叱責が多く、子どもは劣等感を募らせ、学業に対する意欲だけでなく、学校生活全般に対する意欲を失ってしまっていることも考えられる。知能検査を行い、全体的な知的水準や言語理解、空間把握、記憶、処理速度などの各領域の知的水準が得られ、平均とどの程度異なっているのかを把握することができる。

第二に、行動面の問題や、社会性の困難さが顕著な場合である。集団行動が苦手な衝動的な行動で対人関係のトラブルが目立つ子どもや、集中力がなく 1 時間の授業時間中に机に座っていられずに不必要に歩き回ってしまうこと、忘れ物が多く、通い慣れているはずの通学路で迷子になってしまうような場合である。この場合にも、生活の多くの場面でのつまずきや、友だちとの関係が悪化して、なおさら落ち着きがなく乱暴が目立つことや、時には不登校になってしまう可能性も考えられる。検査を実施することにより発達特性が明らかになる。

いずれの場合も、検査結果と日常行動の観察により、個別の支援計画を作成することで、保護者や教師が子どもの行動を理解し、叱責中心の関わりから、特性に応じた教育的支援と心理的支援への変化が可能になる。これにより、子ども自身の生活適応能力が向上し、心理的健康も上昇する可能性が高くなる。また、特別支援教育の必要性、療育手帳の申請、合理的配慮、適正な進学や就労の客観的な資料として活用範囲が大きいとされている。（763 文字）

- ② 心理面接において、傾聴が重要であるが、そのための技術、基本的なかわり技法、留意点などについて述べなさい。

【出題意図】： 面接の基本についての理解をみる

【解答例】：

クライアントとカウンセラーが信頼関係を形成し、安心して話せる関係をつくるために、まず傾聴が必要であるが、そのための基本的なかわり技法については、以下のようなことが挙げられる。

1. 非言語的なかわり行動として、姿勢・視線・うなずき・声のトーンなどに留意することが大切である。

- 姿勢は、たとえば前かがみで足を組むなどの横柄な態度にならないようにする。
- 視線はしっかりクライアントと合わせていくことが大切であるが、凝視にならないよう、適宜はずしていくことも必要である。
- 話を聴きながら継続して話を促すようにうなずき、相づちを打って聴いている姿勢を伝える。
- 声のトーンや話す速度はその内容に応じて対応する。速すぎて尋問のようにならないことが重要である。

2. 言語的な応答技法としては、以下のことが挙げられる

- クライアントが話した内容の中で、キーワードになることを繰り返す。よりそのことについて話を聴きたいといった方向付けをすることにもつながる。
- 質問については、基本的にはオープンクエスチョンを行い、クライアントが自由に話すことをめざすが、相手が話しにくそうにしていたり、確認を行うなど、必要に応じてクローズドクエスチョンも用いる。インテークにおいては、特に定型質問を順にカウンセラーが質問をしていくような対応は避けた方がよい。
- クライアントが話す内容に応じて、感情が表現された場合は、そのわかった気持ちを伝え返す（感情の反射）といった技法を用いる。本人の気づきを促すためにも大切である。
- 断片的な語りであってもそれを整理し、要約して伝え、理解を共有していくことも重要である。

以上が、まずはラポール形成に必要な、傾聴のための基本的なかかわり技法であるが、面接室の環境を整えることも含め、適宜状況に応じて使い分けていくような訓練の積み重ねが必要である。（約760字）

【2】 次の事例を読んで、問いに答えなさい。

20代後半の女性A、会社員。「職場でミスをするので上司から嫌われる、不安で眠れない」という主訴で、心理相談機関を訪れた。カウンセラーが話を聴いたが、実際に大きなミスをしたことや上司から叱責を受けたことはない様子で、上司の表情や態度から「そのように感じる」ということであった。面接を重ねる中で、Aは小さい頃からちょっとした失敗を親にとがめられることが多く、そのため、叱られないよう親の顔色を見ながら育ってきたということがわかってきた。あるセッションで、話が途切れてカウンセラーが沈黙することがあった。

するとAは「先生は私がうまく話せないから私のことをよく思っていないのではないかと不安を語った。

【出題意図】

- ①精神分析の基本的理論を理解できているか
- ②認知行動療法の基本的理論を理解できているか
- ③心理アセスメントの基本的理解ができているか

1. Aの心理についてどのように理解しますか。以下の言葉を用いて説明してください。

① 転移（200～250字）

【解答例】

転移とは、過去の重要な人物との対人関係が、別の他者に無意識のうちに置き換えられる現象である。Aは幼少期に失敗を親からとがめられ、親の顔色を見ながら育った。そのため、「叱られるのではないかと」「否定されるのではないかと」という不安を抱いていたと考えられる。上司から「嫌われるのではないかと」を感じたり、カウンセラーに「自分をよく思っていないのではないかと」不安になったりするの、親に向けていた感情や親との関係で形成された対人関係のパターンが持ち込まれているためであり、転移が生じていると考えられる。

②学習 (200~250 字)

【解答例】

学習とは、経験によって生じる比較的永続的な行動や認知の変化である。A は幼少期、失敗をする
と親からとがめられる経験を繰り返したことで、「失敗すると叱られる」「相手の期待に応えられな
ければ嫌われる」という考え方や対人関係のあり方を学習したと考えられる。そのため、現在の職場で
も上司の表情や態度から否定的に評価されていると捉え、不安を感じやすくなっている。また、カウ
ンセラーの沈黙に対しても同様に、自分がうまくできないため嫌われたのではないかという思考が生
じ、不安を感じたと考えられる。

2. A に心理テストを行うとしたら、何を行いますか。理由と合わせて説明してください。(100~150
字)

【解答例】

まず TEG を用いて、全般的な性格傾向や対人関係の特徴を把握する。また、現在の不安の強さや不
安を感じやすい傾向を査定するため、STAI を実施する。加えて、質問紙では把握しにくい自己イメー
ジや心理的特徴を理解するため、バウムテストを実施する。これらを通して A 自身の自己理解を促
し、面接方針の検討に役立てる。

【3】 以下の事項について述べなさい。(各 150~200 字)

【出題意図】

各分野（精神医療、心理検査、心理療法、発達、統計等）の基本事項についての知識を問う

① 精神交互作用

【解答例】：注意と感覚が悪循環的に作用し、症状が増強する機制のことである。ある感覚に過度に注
意が集中すると、その感覚がより一層鋭敏に感じられるようになり、不安も強くなる。このように、
感覚と注意が相互に影響し合うことで感覚が増幅され、症状がさらに強まるという精神過程を示した
ものである。森田正馬が創始した森田療法における「とらわれ」の仕組みの一つである。(170 字)

② 認知症スクリーニング検査

【解答例】：認知症の可能性(疑い)について短時間で確認できる検査。代表的な検査は、MMSE（ミニ
メンタルステート検査）で世界的に広く使われている。質問項目は、見当識（日付や場所）、記憶、注
意、計算、言語、構成能力などで、30 点満点中 23 点以下が認知症の疑いとされる。HDS-R（改訂長
谷川式簡易知能評価スケール）は日本で広く用いられ、質問項目は、年齢・日時・物品記憶・計算な
どで 30 点満点中 20 点以下が認知症の疑いとされる。(195 文字)

③ 「反抗期」の発達の意義

【解答例】：3 歳頃見られる第 1 反抗期、思春期の第 2 反抗期がある。どちらも、子どもが自我を確立
し、心理的自立へ向かうためのものであり、大人への反抗や反発に見える行為は、大人の価値観をそ
のまま受け取るのではなく、芽生えた自分の意思や価値観を表現している状態である。この時期、
様々な葛藤を経験することで、感情調整力やストレス耐性も育つ。反抗期は「問題行動」ではなく、
自我形成や社会的スキルを獲得するという意義をもつ。

(199 字)

④ 小児期逆境体験(Adverse Childhood Experiences; ACEs)

【解答例】：小児期逆境体験とは、身体的・心理的・性的暴力を受けることや、生活の世話を十分にしてもらえないこと、精神疾患に罹患している人や服役中の人や家族にいたことといった、逆境体験を指す用語である。18 歳までの間に、これらの逆境体験を多く経験するほど、生涯にわたって心身の健康や社会適応に悪影響を及ぼすことが示されている。(154 字)

⑤ 標準化

【解答例】：標準化とは、平均や分散が異なる複数の変数同士を比較するために、同一の比較基準を設定することを指す用語である。変数内の 1 つひとつの値から、その変数全体の平均値を引き、その変数の標準偏差で割ることで、標準得点を求める。標準得点は、平均値が 0、標準偏差が 1 となるため、各値の変数内での相対的な位置の把握が可能となる。(154 字)

2026 年度

奈良大学大学院 秋季入学試験

社会学研究科 社会学専攻 臨床心理学コース

試験問題

英 語

《注 意》

- ① 解答は、すべて解答用紙に記入すること。
- ② 英和辞典の持ち込みを認めます。ただし、電子辞書は不可。

以下の文献は、小児科医であり精神分析家でもあるドナルド・ウィニコット (Winnicott,D.W.) による文章である。以下の英文を読み、設問に応えなさい。

There is plenty of reference in psycho-analytic literature to the progress from 'hand to mouth' to 'hand to genital', but perhaps less to progress leading to the handling of truly 'Not-Me' objects. Sooner or later in an infant's development there comes a tendency on the part of the infant to weave other-than-me objects into the personal pattern. To some extent these objects stand for the breast, but it is not especially this point that is under discussion.

In the case of some infants the thumb is placed in the mouth while fingers are made to caress the face by pronation and supination movements of the forearm. The mouth is then active in relation to the thumb, but not in relation to the fingers. The fingers caressing the upper lip, or some other part, may be or may become more important than the thumb engaging the mouth. Moreover this caressing activity may be found alone, without the more direct thumb-mouth union. (Freud, 1905. Hoffer, 1949.)

In common experience one of the following occurs, complicating an autoerotic 'experience such as thumb-sucking:

1. with the other hand the baby takes an external object, say a part of a sheet or blanket, into the mouth along with the fingers①; or
2. somehow or other the bit of cloth is held and sucked, or not actually sucked. The objects used naturally include napkins and (later) handkerchiefs, and this depends on what is readily and reliably available; or
3. the baby starts from early months to pluck wool and to collect it and to use it for the caressing part of the activity. Less commonly, the wool is swallowed, even causing trouble; or
4. mouthing, accompanied by sounds of 'mum-mum', babbling, anal noises, the first musical notes and so on.

One may suppose that thinking, or fantasizing, gets linked up with these functional experiences.

All these things I am calling transitional phenomena. Also, out of all this (if we study any one infant) there may emerge some thing or some phenomenon-- perhaps a bundle of wool or the corner of a blanket or eiderdown, or a word or tune, or a mannerism, which becomes vitally important to the infant for use at the time of going to sleep, and is a defence against anxiety, especially anxiety of depressive type②. (Illingworth, 1951.) Perhaps some soft object or cot cover has been found and used by the infant, and this then becomes what I am calling a transitional object. This object goes on being important. The parents get to know its value

and carry it round when travelling. The mother lets it get dirty and even smelly, knowing that by washing it she introduces a break in continuity in the infant's experience, a break that may destroy the meaning and value of the object to the infant③.

I suggest that the pattern of transitional phenomena begins to show at about 4-6-8-12 months. Purposely I leave room for wide variations.

Patterns set in infancy may persist into childhood, so that the original soft object continues to be absolutely necessary at bed-time or at time of loneliness or when a depressed mood threatens. In health, however, there is a gradual extension of range of interest, and eventually the extended range is maintained, even when depressive anxiety is near. A need for a specific object or a behaviour pattern that started at a very early date may reappear at a later age when deprivation threatens.

This first possession is used in conjunction with special techniques derived from very early infancy, which can include or exist apart from the more direct autoerotic activities. Gradually in the life of an infant teddies and dolls and hard toys are acquired. Boys to some extent tend to go over to use hard objects, whereas girls tend to proceed right ahead to the acquisition of a family. It is important to note, however, that there is no noticeable difference between boy and girl in their use of the original Not-Me possession, which I am calling the transitional object.

出典：Winnicott,D.W. (1951). Transitional Objects and Transitional Phenomena. Collected Papers : Through Paediatrics to Psycho-analysis. London : Tavistock Publications Ltd.

I. 下線部①～③を和訳しなさい。

II. 本文の内容によく当てはまるものを下記の選択肢のなかから 2 つ選べ。

- a. 乳幼児における性愛の発達ではなく、「私ではない」外部の対象を個人のパターンの中にどのように織り込むか、その傾向について論じている。
- b. 乳幼児の最早期の手指の愛撫活動や指しゃぶりにおいて、親指の活動が特に重要となる。
- c. 移行現象のパターンが現れ始めるのは、生後 2 か月以降から 12 か月頃である。
- d. 乳幼児が初期に移行対象として用いる対象は、就寝時や孤独を感じる時には絶対的に必要なものとなる。
- e. 乳幼児期の男児と女児とでは遊ぶ玩具の性質に違いがあり、移行対象も同様に性質は異なる。

以下の文献は、小児科医であり精神分析家でもあるドナルド・ウィニコット (Winnicott,D.W.) による文章である。以下の英文を読み、設問に応えなさい。

There is plenty of reference in psycho-analytic literature to the progress from 'hand to mouth' to 'hand to genital', but perhaps less to progress leading to the handling of truly 'Not-Me' objects. Sooner or later in an infant's development there comes a tendency on the part of the infant to weave other-than-me objects into the personal pattern. To some extent these objects stand for the breast, but it is not especially this point that is under discussion.

In the case of some infants the thumb is placed in the mouth while fingers are made to caress the face by pronation and supination movements of the forearm. The mouth is then active in relation to the thumb, but not in relation to the fingers. The fingers caressing the upper lip, or some other part, may be or may become more important than the thumb engaging the mouth. Moreover this caressing activity may be found alone, without the more direct thumb-mouth union. (Freud, 1905. Hoffer, 1949.)

In common experience one of the following occurs, complicating an autoerotic 'experience such as thumb-sucking:

1. with the other hand the baby takes an external object, say a part of a sheet or blanket, into the mouth along with the fingers①; or
2. somehow or other the bit of cloth is held and sucked, or not actually sucked. The objects used naturally include napkins and (later) handkerchiefs, and this depends on what is readily and reliably available; or
3. the baby starts from early months to pluck wool and to collect it and to use it for the caressing part of the activity. Less commonly, the wool is swallowed, even causing trouble; or
4. mouthing, accompanied by sounds of 'mum-mum', babbling, anal noises, the first musical notes and so on.

One may suppose that thinking, or fantasizing, gets linked up with these functional experiences.

All these things I am calling transitional phenomena. Also, out of all this (if we study any one infant) there may emerge some thing or some phenomenon-- perhaps a bundle of wool or the corner of a blanket or eiderdown, or a word or tune, or a mannerism, which becomes vitally important to the infant for use at the time of going to sleep, and is a defence against anxiety, especially anxiety of depressive type②. (Illingworth, 1951.) Perhaps some soft object or cot cover has been found and used by the infant, and this then becomes what I am calling a transitional object. This object goes on being important. The parents get to know its value and carry it round when travelling. The mother lets it get dirty and even smelly, knowing that by washing it she introduces a break in continuity in the infant's experience, a break that may destroy the meaning and value of the object to the infant③.

I suggest that the pattern of transitional phenomena begins to show at about 4-6-8-12 months. Purposely I leave room for wide variations.

Patterns set in infancy may persist into childhood, so that the original soft object continues to be absolutely necessary at bed-time or at time of loneliness or when a depressed mood threatens. In health, however, there is a gradual extension of range of interest, and eventually the extended range is maintained, even when depressive anxiety is near. A need for a specific object or a behaviour pattern that started at a very early date may reappear at a later age when deprivation threatens.

This first possession is used in conjunction with special techniques derived from very early infancy, which can include or exist apart from the more direct autoerotic activities. Gradually in the life of an infant teddies and dolls and hard toys are acquired. Boys to some extent tend to go over to use hard objects, whereas girls tend to proceed right ahead to the acquisition of a family. It is important to note, however, that there is no noticeable difference between boy and girl in their use of the original Not-Me possession, which I am calling the transitional object.

I. 下線部①～③を和訳しなさい。

【解答例】

- ① 赤ん坊が一方の手で外的対象、例えばシーツ毛布の一部をつかみ、指と一緒に口に入れる；
- ② （一人でも乳幼児を研究するのであれば）何らかのある物事や現象が現れるかもしれない。おそらくそれは毛糸の束、毛布や羽根布団の角、単語や旋律、癖などであろうが、これらは乳幼児にとって、眠りにつくときに使うために極めて重要なものとなり、不安、特に抑うつ的なタイプの不安に対する防衛になる
- ③ 母親は、それを洗うことで、乳児の体験の連続性が断ち切れ、乳幼児にとってその対象が持つ意味や価値が破壊される可能性があることを知っているので、汚れや臭いをつけたままにするのである。

II. 本文の内容によく当てはまるものを下記の選択肢のなかから 2 つ選べ。

- a. 乳幼児における性愛の発達ではなく、「私ではない」外部の対象を個人のパターンの中にどのように織り込むか、その傾向について論じている。
- b. 乳幼児の最早期の手指の愛撫活動や指しゃぶりにおいて、親指の活動が特に重要となる。
- c. 移行現象のパターンが現れ始めるのは、生後 2 か月以降から 12 か月頃である。
- d. 乳幼児が初期に移行対象として用いる対象は、就寝時や孤独を感じる時には絶対的に必要なものとなる。
- e. 乳幼児期の男児と女児とでは遊ぶ玩具の性質に違いがあり、移行対象も同様に性質は異なる。

【正解】 a、d

2026年度

奈良大学大学院 秋季入学試験

社会学研究科 社会学専攻 **臨床心理学コース**

試験問題(社会人)

小 論 文

《注 意》

解答は、全て解答用紙に記入すること。

臨床心理学を学ぶ者が留意しておくべき倫理・姿勢について論じなさい。

臨床心理学を学ぶ者が留意しておくべき倫理・姿勢について論じなさい。

【出題意図】： 臨床心理学（心理臨床）を学ぶことへの倫理観、基本的姿勢について問う

【解答例】

臨床心理学を学ぶ者に求められる倫理と姿勢は、知識の習得に積極的であるとともに、専門職としての責任を自覚しながら他者の尊厳を守る姿勢や、倫理観の醸成に努めることが必要である。臨床心理士や公認心理師に限らず、学習段階の学生であっても、心理支援に関わる者として一定の倫理的責務を負っていることを自覚すべきである。特に、クライアントの心身に影響を与え得る領域であることを踏まえ、慎重で誠実な姿勢が不可欠である。

第1に、臨床心理学を学び、心理職に就こうとする者の倫理原則として重要なことは、「基本的人権の尊重」である。心理的援助は、介入の仕方によってはクライアントに不利益をもたらす可能性がある。学生は自らの力量を正確に把握し、未熟な技法を安易に用いないことが求められる。判断に迷う場面では、必ず指導教員やスーパーバイザーに相談し、独断で行動しない姿勢が重要である。また、クライアントの自律性を尊重することも欠かせない。インフォームド・コンセントの意義を理解し、説明責任を果たす態度は、学習段階から身につけておくべき基本姿勢である。

第2に、守秘義務とプライバシー保護は、絶対に遵守すべき倫理である。専門職となったときはもちろん、実習や授業で扱う事例には個人情報が含まれており、これを第三者に漏らすことは重大な倫理違反となる。SNSでの不用意な発言や、私的な場での会話にも厳に注意する必要がある。情報の取り扱いに細心の注意を払い、クライアントの尊厳を守る姿勢を徹底することが求められる。

第3に、多重関係に留意する重要性が挙げられる。学生は「学習者」とであると同時に「準専門職」として扱われる場面があり、クライアントや実習先の職員との関係性において利益相反が生じる可能性がある。私的関係を持たないことはもちろん、自分の価値観や感情が支援関係に影響を及ぼさないよう、自己理解を深める姿勢が必要である。臨床心理学では、支援者自身の心理状態が援助の質に影響するため、セルフケアや自己点検も倫理の一部として自己管理に努める必要がある。

第4に、専門性の維持と継続的学習の姿勢が求められる。臨床心理学は科学的根拠に基づく実践が重視される領域であり、最新の研究知見や技法を学び続けることが倫理的責務とされる。学生の段階から、批判的思考を持って文献を読み、スーパービジョンを積極的に受ける姿勢を育むことが重要であり、継続的に自己研鑽を積む姿勢がひつようである。

最後に、研究倫理も臨床心理学を学ぶ者にとって欠かせない。研究対象者の権利を守るため、事前の説明と同意取得、倫理審査の遵守、データ管理の適切性などを徹底する必要がある。臨床研究は個人情報扱うことが多いため、研究者としての責任を強く自覚することが求められる。

以上のように、臨床心理学を学ぶ者に求められる倫理・姿勢とは、他者の尊厳を守り、科学的根拠に基づき、真摯に学び続ける態度である。自らの限界を自覚し、指導者と協働しながら安全な実践を行う姿勢は、専門職としての基盤となる。これらの倫理的態度を学習段階から身につけることが重要であると考えられる。(約1300字)

2026年度

奈良大学大学院 春季入学試験

社会学研究科 社会学専攻 **臨床心理学コース**

試験問題

専 門 科 目

《注 意》

解答は、設問ごとに解答用紙を替えて記入してください。

【1】 次の問題に答えなさい。(各600～800字)

1. 心理職と他職種(医師、教師、社会福祉士)の違いについて説明し、チーム支援を行う際の留意点について述べなさい。
2. 遊戯療法における制限について説明し、制限破りにどのようなことがあるか、また、あなたはそれに対してどのように対応するか、述べなさい。

【2】 次の事例を読んで、①、②の問いに答えなさい。

- ① カウンセラーがAさんをアセスメントする上で確認すべき情報について述べなさい。(250～300字)
- ② カウンセラーの提案する方針と対応について述べなさい。(250～300字)

50代男性のAさんは、カウンセリングを求めて相談室に来室した。主訴は夫婦関係の改善である。Aさんの妻は40代に入り、Aさんとの関係のうまくいかなさから、気分の落ち込みが生じた。妻は、心療内科を受診しうつ病の診断を受け、治療を開始した。同時期に、さまざまなメディアの情報から、自分がカサンドラ症候群ではないかと疑い始め、Aさんの発達障害傾向を確信し、「カウンセリングを受診し、考え方や行動を改めないのであれば離婚をする」と言い渡していた。Aさんとしては妻や子どものために長年会社員として働いてきて、感謝されこそすれ、なぜこんなことになるのかと戸惑っていた。そして、確かに子ども時代から他者の気持ちを読み取りにくく、空気の読めなさや馴染みにくさを感じてきたこと、夫婦の間でも一方向的なやり取りが多かったことを語った。Aさんは、カウンセリングを通じて、発達障害を改善していきたいが、何をすればよいのかとカウンセラーに尋ねてきた。

【3】 以下の事項について述べなさい。(各150～200字)

- ① 4つの尺度水準
- ② 相互なぐり描き法
- ③ P-Fスタディ
- ④ 気分障害
- ⑤ 感覚運動期

専門科目

【1】 次の問題に答えなさい。（各 600~800 字）

1. 心理職と他職種(医師、教師、社会福祉士)の違いについて説明し、チーム支援を行う際の留意点について述べなさい。

【出題意図】： 心理職と他職種との専門性や役割の違い、および多職種によるチーム支援のあり方について理解できているか。

【解答例】

いずれも対人支援に関する職種であるが、それぞれ専門性や役割が異なっている。心理職は、心理学的な知識と技法に基づき、心理面接（カウンセリング）や、心理検査、観察などを通して心理アセスメントを行い、心の健康や対人関係、生活上の困難などを理解し、心理的な支援を行う。医師は、身体の病気やけが、精神疾患などの診断や治療を行う。医学的な観点から心身の状態を把握し、必要に応じて薬物療法などを行う。教師は、教科指導や部活動、行事、生活指導などを通して、子どもの学習や社会性の発達を支援する。主に学校教育の場において、集団や個人に対して教育的な働きかけを行う。社会福祉士は、生活上の課題や社会資源に着目し、福祉制度の活用や関係機関との調整などを通して支援を行う。このように、各職種は対象者を異なる視点から理解し、それぞれの専門性に基づいた支援を担っている。

チーム支援を行う際には、各職種の役割や専門性と、自分の専門領域の限界を理解し、互いの立場を尊重することが重要である。自分の専門領域だけで問題を捉えるのではなく、他職種から得られる情報や意見をふまえ、多面的に対象者を理解する必要がある。他職種に情報や見立てを伝える際には、多職種間で共通理解が可能な言葉を用いて説明することも大切である。また、情報共有は重要であるが、対象者のプライバシーや守秘義務に十分配慮し、支援に必要な範囲で適切に行わなければならない。一方で、守秘義務を重視するあまり、支援に必要な情報まで共有しないことにも注意が必要である。さらに、支援方針や役割分担について共通理解をもち、必要に応じて連絡会議の場を持つなど、話し合いや調整を行うことも求められる。チーム支援では、各職種が専門性を発揮しながら連携することで、一つの職種だけでは対応が難しい複雑な問題にも、より包括的かつ継続的に対応することが可能となる。（782 字）

2. 遊戯療法における制限について説明し、制限破りにどのようなことがあるか、また、あなたはそれに対してどのように対応するか、述べなさい。

【出題意図】： 遊戯療法の基本について理解しているか

【解答例】

遊戯療法における制限とは、子どもの安全と治療的枠組みを守るために設定される「最低限のルール」のことで、子どもの表現を妨げない範囲で提示する。

主に、①自分や他者を傷つけない、②部屋や道具を壊さない、③部屋の外に勝手に出ない、④時間を守る、などが挙げられる。この他、場合によっては他の子どもを連れてこない、部屋の物を持ち出したり私物を持ち込まないなどもある。これらは子どもの自由な表現を保障しつつ、治療関係を安定

させるための“棒”として機能させるものである。

具体的例としては、①については、戦いごっこがエスカレートし、セラピストを本気で殴る、叩くなどの攻撃的行為を行う。②については、わざと道具を乱暴に扱う、物を投げて壊す。③については、途中で勝手に出ていく。④終了を告げてもなかなか止めないなどが挙げられる。

そして、わざと禁止された行為をちらちら見ながら行うような場合、「どこまで自分を受け止めてもらえるか」の試し行動であったり、激しい行動は衝動の強さを表すものであったりと、心理的意味をもつことが多い。

制限破りへの対応の基本は、落ち着いた態度で一貫して制限内容を伝え、行動の背景にある感情を言語化することがよいと考える。たとえば、「叩きたくなるような腹の立つ気持ちが強いよね。」とか、「叩きたい気持ちは、このパンチングバッグに向けよう。」などが考えられる。また、人を叩くことはしないように、物を壊さないようになど制限を超える行動については冷静に伝えることが必要である。すぐに改善しないかもしれないが、こういった制限破りの行動が何を伝えているかを考え、棒を守る姿勢を一貫して示していくことが、子どもの安心感にもつながると考えられる。(715 文字)

【2】 次の事例を読んで、1、2 の問いに答えなさい。

50 代男性の A さんは、カウンセリングを求めて相談室に来室した。主訴は夫婦関係の改善である。A さんの妻は 40 代に入り、A さんとの関係のうまくいかなさから、気分の落ち込みが生じた。妻は、心療内科を受診しうつ病の診断を受け、治療を開始した。同時期に、さまざまなメディアの情報から、自分がカサンドラ症候群ではないかと疑い始め、A さんの発達障害傾向を確信し、「カウンセリングを受診し、考え方や行動を改めないのであれば離婚をする」と言い渡していた。A さんとしては妻や子どものために長年会社員として働いてきて、感謝されこそすれ、なぜこんなことになるのかと戸惑っていた。そして、確かに子ども時代から他者の気持ちを読み取りにくく、空気の読めなさや馴染みにくさを感じてきたこと、夫婦の間でも一方向的なやり取りが多かったことを語った。A さんは、カウンセリングを通じて、発達障害を改善していきたいが、何をすればよいのかとカウンセラーに尋ねてきた。

① カウンセラーが A さんをアセスメントする上で確認すべき情報について述べなさい。(250~300 字)

【解答例】

現在の情報については、どのような夫婦関係を歩んできたかということの経緯、発達傾向については幼少期から成人に至るまでの生活史、対人関係の傾向、仕事の仕方について聴取する。

② カウンセラーの提案しうる方針と対応について述べなさい。(250~300 字)

【解答例】

夫婦関係における A の傷つきや気持ちの整理、今後の妻との関わり方について考えたいということであれば個人療法、夫婦ともに関わり方について考えていきたいということであれば夫婦カウンセリング、家族療法を用いたアプローチとなる。発達特性の傾向について知りたいということであれば知能検査や発達検査を実施する。また、医学的診断が必要でありニーズがあれば医療機関の紹介となる。

【3】 以下の事項について述べなさい。(各 150~200 字)

【出題意図】

各分野（精神医療、心理検査、心理療法、発達、統計等）の基本事項についての知識を問う

① 4つの尺度水準

【解答例】

変数や調査で得られたデータがもつ性質を表す概念である。Stevens の分類によれば、質的なカテゴリーによって区別する名義尺度、大小や優劣などの順序で区別する順序尺度、等間隔な性質をもった尺度である間隔尺度、等間隔および等比性をもった尺度である比率尺度の4つがある。データの分析にあたっては、尺度水準の違いによって、四則演算の可能性や使用できる統計解析の手法が異なることに留意する必要がある。(190 字)

② 相互なぐり描き法

【解答例】

ウィニコットが考案した描画を用いた心理療法の技法で、スクイグル法ともいう。一方がなぐり描きをした後、他方がその線から何かを想像し、彩色するなどして絵を完成させる。これをセラピストとクライアントの間に交互に繰り返す。遊びの要素が強く、子どものほか、絵に苦手意識をもつ人にも適用しやすく、関係形成に役立つことがある。また、双方の無意識的な内容が表現される可能性がある点も特徴である。

③ P-F スタディ

【解答例】

1948 年、米国のローゼンツァイクによって考案された心理テストで、刺激場面が欲求不満に限られていることから準投射法と位置付けられている。日常生活で経験するような24の欲求不満場面が絵画で書かれ、回答者は吹き出しに欲求阻害を受けた人物が何と答えているかを言葉で記入する。攻撃性の方向（他責・自責・無責）と型（主張、ためらい、防止）から、性格特性や対人関係の傾向を把握する。

④ 気分障害

【解答例】

気分障害とは、気分の落ち込みや高揚が長期間続き、日常生活や社会生活に支障をきたす精神疾患である。抑うつ気分、意欲低下、不眠などを中心とする大うつ病と、抑うつ状態と躁状態とを交互に繰り返す双極性障害が中心の病像となる。突発的な自殺や問題行動に注意が必要となる。治療には、環境調整のうえでの療養と、抗うつ剤が中心に用いられ、段階的に回復することが望ましい。

⑤ 感覚運動期

【解答例】

ジャン・ピアジェが提唱した認知発達理論における、生後から約2歳までの乳幼児期のことで、目で見たり手で触れたりする「感覚」と、体を動かす「運動」を通じて、まわりの世界を認識して知性を発達させる時期のことである。さらに6段階に分けられる。主な特徴としては、繰り返しの行動を指す「循環反応」が見られることや「物の永続性」を獲得することが挙げられる。(172 字)

2026 年度

奈良大学大学院 春季入学試験

社会学研究科 社会学専攻 臨床心理学コース

試験問題

英 語

《注 意》

- ① 解答は、すべて解答用紙に記入すること。
- ② 英和辞典の持ち込みを認めます。ただし、電子辞書は不可。

以下の文章は、心理療法の実践について述べたものである。文章を読み、設問に答えなさい。

If clients experience, accept, and own their emotions, they can become open to new feelings and experiences. Feelings are not static but rather change once they are experienced. When a person experiences a feeling fully and completely, new feelings often emerge. ①For example, once Varda experienced her anger, she became aware of other feelings such as sadness, which then led eventually to feelings of acceptance and peace. The goal of helping is not to make the client feel “better” but rather to help the client experience emotions more deeply: to laugh when happy, cry when sad.

Clients do not have to act on the feelings, but they can make more informed decisions about what to do when feelings are out in the open. In fact, being aware of one’s feelings makes one less likely to act on feelings unintentionally. ②In contrast, unaccepted feelings are likely to “leak” out, sometimes in destructive ways. For example, Robert unintentionally was rude and hostile to a friend who was accepted into a prestigious law school because Robert’s own application had been rejected. Consciously, he was happy for his friend, but he had not worked through his own wounded feelings. All of us know people who do not directly say they are angry but instead communicate indirectly subtle, nasty messages that make it difficult to respond to them. Other people get stuck because they cannot accept their feelings. Similar to the obstruction that occurs when a river gets dammed up, these people get blocked if they do not allow themselves to have and express their feelings.

Feelings are rarely simple or straightforward; therefore, it is important to note that ③clients might have several conflicting feelings about a topic. For example, Diana might feel excited about taking a new job and pleased that she was selected over other candidates. However, she might also feel anxious about what is required of her, afraid of working too closely with the boss (who reminds her of her father), insecure about how others may view her, and worried about whether she can make enough money to pay the rent. It is important for helpers to encourage clients to experience and explore these many feelings without worrying about whether the feelings are rational, ambiguous, or contradictory.

Anger, sadness, fear, shame, pain, and hurt seem to be the most important emotions involved in therapeutic change (Greenberg, 2015). These negative emotions are often bottled up and not expressed or experienced because of shame and fear of disapproval. Many people cannot allow themselves to even think about such feelings. Hence, clients require ④a supportive environment to feel safe enough to express these feeling openly.

It also appears that some emotions are hard to read. Results from two studies (A.P. Atkinson, Dittrich, Gemmell & Young, 2004; Van den Stock et al., 2007) suggest that fear and anger are harder to recognize than happiness and sadness. In addition, fear and anger are difficult to distinguish. These results indicate the importance of helpers not making assumptions about what clients are feeling.

In addition, it is important to note that sometimes emotions exist in layers (Greenberg, 2015; Teyber, 2006). For example, after anger is expressed and experienced, sadness and shame often emerge. Inversely, after sadness is expressed and experienced, anger and guilt often emerge. Similarly, some therapists believe every feeling has two sides. If clients talk only about fear, helpers might wonder about wishes; if clients talk only about love, helpers might wonder about hate. By fostering exploration of the feelings, helpers enable clients to admit the multitude of feelings they might not otherwise have been able to acknowledge.

(出典 : Hill, C.E. (2020). Helping Skill: Facilitating Exploration, Insight, and Action (5th ed). pp.153-154)

問 1 下線部①を和訳しなさい。

問 2 下線部②を和訳しなさい。

問 3 下線部③について, Diana に生じた **conflicting feelings** の内容を説明しなさい。

問 4 心理療法において, 下線部④が必要とされる理由を具体的に説明しなさい。

問 5 感情の読み取りについて, 本文中の先行研究から明らかになっている内容を説明しなさい。

問 6 以下の(1)～(5)の文章について, 本文の内容と合致するものには○, 合致しないものには×を記入しなさい。

- (1)心理療法の目標は, クライエントの感情をよりよいものにすることである。
- (2)クライエントは, 抱いた感情のままに行動すべきである。
- (3)Robert が友人に示した敵意には, 彼が向き合ってこなかった感情が表れている。
- (4)援助者は, クライエントの感情を積極的に推し量ることが望まれる。
- (5)悲しみの裏に怒りがあるように, 感情は層をなしうることに留意すべきである。

英語問題

以下の文章は、心理療法の実践について述べたものである。文章を読み、設問に答えなさい。

If clients experience, accept, and own their emotions, they can become open to new feelings and experiences. Feelings are not static but rather change once they are experienced. When a person experiences a feeling fully and completely, new feelings often emerge. ①For example, once Varda experienced her anger, she became aware of other feelings such as sadness, which then led eventually to feelings of acceptance and peace. The goal of helping is not to make the client feel “better” but rather to help the client experience emotions more deeply: to laugh when happy, cry when sad.

Clients do not have to act on feelings, but they can make more informed decisions about what to do when feelings are out in the open. In fact, being aware of one’s feelings makes one less likely to act on feelings unintentionally. ②In contrast, unaccepted feelings are likely to “leak” out, sometimes in destructive ways. For example, Robert unintentionally was rude and hostile to a friend who was accepted into a prestigious law school because Robert’s own application had been rejected. Consciously, he was happy for his friend, but he had not worked through his own wounded feelings. All of us know people who do not directly say they are angry but instead communicate indirectly subtle, nasty messages that make it difficult to respond to them. Other people get stuck because they cannot accept their feelings. Similar to the obstruction that occurs when a river gets dammed up, these people get blocked if they do not allow themselves to have and express their feelings.

Feelings are rarely simple or straightforward; therefore, it is important to note that ③clients might have several conflicting feelings about a topic. For example, Diana might feel excited about taking a new job and pleased that she was selected over other candidates. However, she might also feel anxious about what is required of her, afraid of working too closely with the boss (who reminds her of her mother), insecure about how others may view her, and worried about whether she can make enough money to pay the rent. It is important for helpers to encourage clients to experience and explore these many feelings without worrying about whether the feelings are rational, ambiguous, or contradictory.

Anger, sadness, fear, shame, pain, and hurt seem to be the most important emotions involved in therapeutic change (Greenberg, 2015). These negative emotions are often bottled up and not expressed or experienced because of shame and fear of disapproval. Many people cannot allow themselves to even think about such feelings. Hence, clients require ④a supportive environment to feel safe enough to express these feeling openly.

It also appears that some emotions are hard to read. Results from two studies (A.P. Atkinson, Dittrich, Gemmell & Young, 2004; Van den Stock et al., 2007) suggest that fear and anger are harder to recognize than happiness and sadness. In addition, fear and anger are difficult to distinguish. These results indicate the importance of helpers not making assumptions about what clients are feeling.

In addition, it is important to note that sometimes emotions exist in layers (Greenberg, 2015; Teyber, 2006). For example, after anger is expressed and experienced, sadness and shame often emerge. Inversely, after sadness is expressed and experienced, anger and guilt often emerge. Similarly, some therapists believe every feeling has two sides. If clients talk only about fear, helpers might wonder about wishes; if clients talk only about love, helpers might wonder about hate. By fostering exploration of the feelings, helpers enable clients to admit the multitude of feelings they might not otherwise have been able to acknowledge.

(出典 : Hill, C.E. (2020). Helping Skill: Facilitating Exploration, Insight, and Action (5th ed). pp.153-154)

問 1 下線部①を和訳しなさい。

【解答例】

例えば、ヴァルダがひとたび怒りを経験すると、悲しみといった他の感情にも気 0 づいた。このような感情によって、やがて彼女は受け入れられている感覚や、穏やかな感覚を抱くようになった。

問 2 下線部②を和訳しなさい。

【解答例】

対照的に、受容されていない感情は漏れ出しやすく、ときには破壊的な形をとる場合もある。

問 3 下線部③について、Diana に生じた conflicting feelings の内容を説明しなさい。

【解答例】

ダイアナは、新しい仕事に就くことにワクワクし、候補者の中から選ばれたことを喜んでいるかもしれない。一方で、自分に求められることに不安を感じ、母親を連想させる上司と一緒に働くことを恐れている。また、他人からどう見られるか自信がなく、家賃を支払えるだけの収入を得られるか心配するなど、葛藤を抱えている。

問 4 心理療法において、下線部④が必要とされる理由を具体的に説明しなさい。

【解答例】

怒りや悲しみといった否定的な感情は、恥ずかしい思いや相手から受け入れられないことへの恐れから表出されることが少ないため、クライアントがこのような感情を十分に表出できるように、安心であると感じられる環境が必要であるため。

問 5 感情の読み取りについて、本文中の先行研究から明らかになっている内容を説明しなさい。

【解答例】

恐れや怒りといった感情は幸せや悲しみといった感情に比べて認識するのが難しい。加えて、恐れと怒りは識別するのが難しい。

問 6 以下の(1)～(5)の文章について、本文の内容と合致するものには○、

合致しないものには×を記入しなさい。

(1)心理療法の目標は、クライアントの感情をよりよいものにすることである。

(2)クライアントは、抱いた感情のままに行動すべきである。

(3)Robert が友人に示した敵意には、彼が向き合ってこなかった感情が表れている。

(4)援助者は、クライアントの感情を積極的に推し量ることが望まれる。

(5)悲しみの裏に怒りがあるように、感情は層をなしうることに留意すべきである。

【正解】

(1)	×	(2)	×	(3)	○	(4)	×	(5)	○
-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---

2026年度

奈良大学大学院 春季入学試験

社会学研究科 社会学専攻 **臨床心理学コース**

試験問題(社会人)

小 論 文

《注 意》

解答は、全て解答用紙に記入すること。

スクールカウンセラーが勤務校に出勤すると、校長先生から「今朝、『本校の中学2年生男子3人が、一人の男子生徒に殴る蹴るの暴行を働いている動画がSNS上に掲載されている』と複数の生徒・保護者から連絡があった」と知らされた。スクールカウンセラーとして、どのような支援が考えられるか述べなさい(1200～1500文字)。

社会人小論文問題（1200～1500 文字）

【出題意図】：スクールカウンセラーの役割について理解しているかどうかをみる。

スクールカウンセラーが勤務校に出勤すると、校長先生から「今朝、『本校の中学 2 年生男子 3 人が、一人の男子生徒に殴る蹴るの暴行を働いている動画が SNS 上に掲載されている』と複数の生徒・保護者から連絡があった」と知らされた。スクールカウンセラーとして、どのような支援が考えられるか述べなさい。

【解答例】：

スクールカウンセラーは、心理学的専門性から、被害生徒の心のケアを中心に加害生徒、学校全体への包括的支援をして学校全体が安全安心感と適切な学校機能の回復を図るための支援と助言を行うことが重要である。危機対応・心理支援・学校体制について順に述べる。

まず初動として、校長を中心とした管理職・生徒指導担当・学年主任等と速やかに情報共有を行い、事実確認と被害生徒の安全確保が最優先であることを確認する。

被害生徒が登校している場合には、被害生徒と加害生徒の接触を避けるため別室対応や保健室対応などの環境調整をし、保護者と連携した支援を行うように助言する。また、全校生徒・保護者に対して、被害者・加害者への誹謗中傷などの二次被害および誤った風評被害が学校関係者全体に与える大きな影響を防ぐために、SNS の不要な閲覧や憶測を避けさらなる拡散に繋がらないように協力を依頼し、学校方針の説明を早急に行う必要性を促す。管理職には、SNS 管理者への投稿削除の依頼と、報道対策による二次被害防止を助言する。

次に、被害生徒への直接的心理支援が重要である。暴行および動画拡散という出来事は、強い恐怖、不安、羞恥、怒り、無力感などを引き起こし、トラウマ反応を呈する可能性がある。SC は面接を通して心理状態を丁寧にアセスメントし、「あなたが悪いわけではない」「怖かったのは当然である」といった言葉がけによる被害者の安全安心感の回復を図る。急性期には詳細な聴取を避けて情緒の安定を優先し、保護者には被害を受けた子どもへの適切な対応についての助言も行う。また必要に応じて医療機関や外部専門機関との連携も検討し、被害回復が長期に渡る可能性を考慮した支援体制を整える。

加えて、加害生徒への支援も再発防止の観点から不可欠である。事実確認や指導、警察や児童相談所への通報・通告は学校教員の役割として任せて、スクールカウンセラーは背景要因への理解を促す。個別面接が可能な場合には、事案の背景にある環境要因、性格特性、感情、認知の偏りを整理し被害者への共感的視点を促し行為の重大性を理解させる。

次に、学校全体へのコンサルテーションも重要な役割である。全教職員に、被害の心理的影響や SNS による噂や詮索が被害を拡大させる危険性を助言する。

さらに、全教職員に、教職員の動揺や困惑について労い、冷静かつ柔軟な職務遂行で危機対応できるような心理支援を行う。

以上のように、スクールカウンセラーは、被害生徒と保護者心理的支援、加害生徒の再発防止、教職員、学校組織全体の機能回復等の包括的支援が必要とされる。調査や処分は SC の役割ではないが、心理的観点からの助言を行うことが重要である。学校・生徒の安全安心感が回復し、学校が適切に機能するように支援するという重要な役割を担っている。なお、被害者に対する長期的な心理的回復への体制づくりや、学校全体の再発防止のための心理教育を継続していかなければならない。(1212 文字)